

つめひ

第12号



新井
ヤク

須賀学園生徒会





ボックス前に抜出チームと顔を合せ応援席には校長先生を始め栃木県関係の役員の方が席狭いばかりの応援。やがて抜出先攻によりブレールは宣せられた。

午前九時二十分、嵐の前の静けさを破って、世紀の一戦は展開された。先取得点を狙え、強豪チームの数少ないチャンスに精神的打

表れてゐる。三塁塁手の工藤は、右投手の三塁塁手として、続いて八番打者にはカウント2-1後ワイルドピッチでホアボールとなり、無死一、二塁のピンチである。先取をとあせる二塁走者は三塁塁壘を企て、不成功に一死となった。次いで九番はピッチャー横を抜く内野安打。続いて一番のセフティに一死満塁のピンチ!!



巻頭言

学 校 長
須 賀 友 正

早春の日射しがやわらかくさすころ、クリーム色の窓辺に乙女らの嬉々としたわむれの声が元気にひびく。それは古い道徳理念で教育された我々の若い時代の声ではなく、戦後十年の荒々しい苦悩のなから生れた十代の新しい声である。

既成の権威をはねのけ何にもとらわれない弾力性が生き生きと躍如している。自由に卒直に堂々と自己の見解を表現する明るい態度、これら伸びゆく生徒たちの姿を見る時、こゝに次の世代のモラルを感じ若い息吹きを心強く思うばかりである。

しかし、こうした行動と態度の中に、将来の目標、自己主張と責任、内省的努力が欠如してはいないだろうか。私は皆さんに「希望をもって進め」と言いたい。常に人間は明日に希望をかけている。何んらかの意味で人間は希望に生きているとも考えられる。しかし、若人の前にはこの希望の燈火が大きく揺れ動き、時には風前の燈と変わるのではあるまいか。私どもは常に希望に満ちあふれると共に、この希望を実現するため自己に對して深い思索と自覚、反省と努力を要するわけである。

本校もこの明日への希望に燃えて年毎に内外の施設が充実してきた。本年度に入りミシン教室の新築、本館改築、すみれ寮の開設、そして卒業生のアフターケア施設としての研究科の設置。又、生徒会の活動も伝統のソフト部の七年連覇を始めバレー部の初優勝、文化部の活躍もめざましく新年度への希望は大きく燃え上っている。

雪解けのきれいな水が流ればじめ、本年もまた幾多の愛し子を送る頃となる。日々これ光陰の感、喜びの中にも惜別の悲哀はたとえようもない。明日への希望と愛情をいただき、元気に、清純に、素直なる心をもって幸いを得て欲しいと願うばかりである。

早春によせて



ソフト部



優勝旗
(第七回関東ソフトボール大会)

バレーボール部(県下大会優勝)



バザー(洋裁室)



(行進)
運動会

